

第 2 回白馬村地域公共交通検討委員会における主な議論について

1 アンケート結果・課題について

<高瀬アドバイザー>

○自動車の利用が前提で国道 148 号沿線に立地している状況であるとの記述があるが、旧街道からの話でありバスを始めとする公共交通も存在しており自動車利用を前提としているわけではない。

○白馬村は夏と冬で大きな繁忙シーズンがあり、交通事業者の方々の課題としても、冬と夏の交通需要ピーク時の対応であると考え。ナイトシャトルバスの運行により多少の混雑緩和が図られたところではあるが、繁忙期と閑散期の運行について運行内容を使い分けるような検討を重ねる必要がある。8月の繁忙期については、学生は夏休みであるので通学与観光でバランスをとった運行なども考えられる。季節や時間帯などのピーク時を活用した運行体系を構築すると更に良くなると考える。

○村民アンケートの集計内容がわかり辛い点がある。意向聴取したいターゲットが絞り辛いため、どのような属性の人がどのような回答をしているのかを把握できるようにまとめて欲しい。

<鈴木委員>

○アンケートの結果が出てきた中で、全体の課題として何があるのかを検討をし、列挙された課題について、委員会として具体的に把握することが重要であると考え。

○送迎を行っている保護者からも負担に感じているという意見がとても多い中で、路線バスの一部をスクールバスとして運行するなど柔軟な発想を持って検討する必要がある。交通体系を検討する上でも機械的に現状を列挙するだけでは個別の検討になってしまう為、総合的な検討が望ましいと考える。決まった固定概念に囚われず、柔軟な運用を検討する必要がある。

○課題の仕分けについて「対策を実施しているが不十分」または「未対策で検討が必要」に変えるべきである。

<田代委員>

○小学生・中学生・高校生における送迎について、徒歩圏内に住む学生においては送迎ありきの検討ではなく、集団登下校などの徒歩による登下校を推奨するような環境整備の検討が必要であると考え。

○他の市町村での生活と比較すると、白馬村内における移動手段の割合は自家用車がとても多い。その理由として、他市町村は公共交通同士の連携が取れていたり、車の駐車場代が高いなどが挙げられる。アンケート集計結果を参考にすると、バスや電車等の乗り継ぎ利便性の向上を求める意見も多いのが分かる。新しい公共交通の導入には相応のコストがかかってしまう為、現存する資源を有効活用することで、観光客や住民にとってよりよい検討内容が生まれるのではないだろうか。

<風間委員>

○デマンド型乗合タクシーに関して、土日運行の要望が強くある中で問題となるのが、運転手の確保と車両の確保と管理についてである。すぐに対応の可否についての返答は難しいが、土日運行実走に向けて内部で検討を進めていく予定である。

○車両の問題として、ジャンボタクシーは運転手含め10人しか乗車することができないため輸送量に限界がある。また、現行のサービス内容は戸口から戸口まで送迎するため、乗車地点の散らばりによっては一台では時間内に拾いきれず予備車を要請する事態となっている。オフシーズンであれば対応可能であるが、オンシーズンや週末となると観光客等の対応も増えるため対応が難しくなる。今シーズンからは、営業区域を北アルプス安曇野交通圏まで広げ安曇野のタクシー会社の協力を得る中で、需要に対応しようとしている状況である。

<高梨委員>

○高齢者と児童は分けて考えていくべきだと考えている。しかし、観光交通と生活交通に関しては、部分的に混ぜて考えられるのではないか。フランスのシャモニーでは、生活交通である路線バスの中にスキー場へのルートが混在しており料金体系も同一であった。

○冬期にスキー場間で運行されているシャトルバスの運行は自由に走らせている部分があり、今後統合が図る必要があると考えている。その過程で住民利用を勘案できるのではないかと考えている。

<井藤委員>

○本検討委員会において公共交通を考える上での対象は、村民全員であるとの話があったが、村民全員の中には学生や高齢者など様々な属性が存在しているため、各々に対して対策等の検討を行うべきであるとする。

○資料の中に、既存の交通がバラバラに存在しておりその為わかりにくいとの表現があるが、別の交通事業であるためバラバラであるのはある種当たり前であるとする。またその為わかりにくい交通体系とはどのような因果関係があるのか、具体的にはどのような内容なのか、事業の認知度についてなのか、運行内容に関してなのかわかり辛い。具体的な部分までの深掘りをして検討をする必要がある。

<福島委員>

○冬については、車を持たない外国人観光客を中心にナイトシャトルバスやスキー場間のシャトルバスなどの乗車がとても多い。夏に関しては、7月8月に白馬アルプス花三昧というイベントを実施しており、シャトルバスの提供をしている。去年と比較すると、乗車数は半減してしまいシャトルバスの存続の在り方について検討しているところであり、料金設定や運行ルート、7月8月に限らず閑散期を含めたグリーンシーズン全体での観光バスの拡充などの意見が全体の意見として多く上がっている。

○ナイトシャトルバスの利用客の傾向は、自家用車で来村している日本人観光客ではなく、朝食のみの宿泊プランで長期間滞在の外国人観光客である。村民がナイトシャトルバスを利用しない理由として、外国人観光客の乗車が多く利用し辛いや、運行体系として住民が利用できないといった誤った情報を持っている意見があるため、そういった意識の改善等に努める必要があると考えている。当時の会議では、観光の為の交通と生活の為の交通は大きな違いがあるため、観光交通と生活交通を一緒の交通サービスで賄うのは難しいとの結論に至ったと記憶している。

<速水委員>

○課題の仕分けについては、新たな公共交通による移動交通手段確保の検討は難しいとの結論になっている。この結論に至った経緯が明確でなく、新たな交通手段については今後検討を進めていく必要があると考えているため、このようなネガティブな結論とするべきではないと考える。アンケートの結果等を尊重し個人の意見をより多く取り入れて検討を進めていきたい。

<藤本委員長>

○村民全体を考える中で、高齢者や学生といった属性をどこまで一体的に検討できるのか、観光交通と生活交通の線引きに関しての検討など様々な意見を頂くことができた。更に深掘りするためにも、アンケート集計結果についてどの様な人がどのような問題を抱えているのかを把握できるよう精査してほしいと思う。